

方以廣敷番に轉任

家譜 今の小普請石原
孫助義陳の祖なり

石原

新庄藩 藤原某ハ清次郎正秋の子まことつとなり

つと 按之からし甲斐國志小より名不新庄藩の守明と稱せし
あやされとも疑し此事あはれなる文に記さしむるにて

石原ハ系嗣詳ならず事多し今其方ハ 甲斐又ハ
家譜に譲りてしるし 教員を以

生息父子ととに武田家より久々天正

十年勝頼没後

東照宮甲斐國小お入せ給ふととめさ

申すまゝに奉つし 寛永 同十一年六月

甲斐國の舊知五十二貫四百文餘乃地
たふしきりてこれごとく新勢ありて
との清朱印とたゆふ同十八年關東小入
せ給ひて後川越の城守り其後川越
領及び甲斐信濃兩國の清代官とつとむ
家譜 其後

台徳院殿よりつとまよせ
五月十九日とつと七十一にて死ひ法名
寛永 元和七年

とつと悦とつと其子平玄清まさゆき種父子継
て清代官と勤め後駿河大納言忠長御に
附屬せしき小性組の番頭とつと心寛
永七年二月廿四日死ひ其子清十郎
某忠長御より父の遺跡と賜ひしれ
と成ふとつと死ひつと八嗣あり
て家絶ぬ家譜
清左衛門一重うらひ新左衛門某と二男あり